



とびっくす No.57

(本誌はホームページでもご覧いただけます。<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

アカアマダイの全国会議が出雲市で開催

～ 種苗生産、中間育成、資源管理から

ブランド化まで幅広い分野について討議 ～

アカアマダイは日本海西部から九州西岸にかけての広い範囲で漁獲されていることもあり、多くの府県や国の機関において試験研究の対象となっています。また種苗生産や中間育成だけでなく、資源管理やブランド化を目指した付加価値を高めるための研究も広く行われています。

アカアマダイ研究の最前線にあたる「日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議 日本海資源生産研究部会 アカアマダイ分科会」が、平成 24 年 2 月 29 日、高品質なアカアマダイとして全国でも有名な“小伊津アマダイ”のお膝元である出雲市（出雲市役所）で開催されました。島根県出雲市で開催の運びとなったのは、出雲市が日本海区水産研究所宮津庁舎によって育てられたアカアマダイ稚魚の中間育成技術開発を行い、育成した魚の放流を行ってきたためですが、島根県に日本海や西海区の各水産総合研究センター水産研究所や東京海洋大学、北は京都から南は宮崎までの各府県が一同に会し、アカアマダイの調査、研究結果が報告、検討されるのは初めてのことです。



研究会の概要

会議ではまる一日かけて活発な情報交換や多くの話題提供が行われました。

当水産技術センターからは、今年度の種苗生産においてこれまでで最も多くの稚魚を生産できたものの、疾病の発生や形態異常、突然死によって斃死・減耗がみられたことについて報告しましたが、他県での斃死事例や取り組みなど数多くの助言をいただきました。また中間育成を行っている JF しまね平田支所と出雲市からは本年度の中間育成が順調に推移していることのほか、選別方法の改善に関する報告がありました。資源の分野では、西海区水産研究所から漁獲量が比較的多い東シナ海域の資源の状況についての報告があり、アマダイの資源水準は低位横ばいの状況にあって、この海域でのアマダイ資源の回復には中国の取り組みが必要なことが報告されました。生態の分野で

は日本海区水産研究所から、若狭湾西部のアカアマダイの仔魚（産まれたばかりのアカアマダイ）の分布域が成魚のそれと変わらないことが報告されました。漁具漁法の分野では水産総合研究センター開発調査センターからトロール網では延縄で漁獲されない安価な小型魚が漁獲されることが報告されました。京都府漁連からは「京のブランド産品」の一つとして、「丹後のぐじ」の知名度の向上と単価アップを目的に、平成16年度からブランド化の取り組みを行っているが、出荷先へのPRや生産者・漁協・漁連の連携が難しかったことについて苦労話も交えた報告がありました。そしてアカアマダイ研究の中心的な存在である日本海区水産研究所宮津庁舎からは、アマダイの種苗生産技術開発、漁獲物や標識に関する調査・研究のほか、養殖の可能性に至るまで多岐に渡る報告が複数の研究者から報告されました。

これ以外にも山口県、福岡県、宮崎県などから様々な報告があり、まさにアマダイ研究の最前線、といった会議となり、活発な議論が展開されました。

今後当水産技術センターでは種苗生産を始めとした研究を継続して実施しますが、こういった横の繋がりにより、研究の新たな進展が期待されます。

付記

水産技術センター内水面浅海部浅海グループで種苗生産・中間育成したアカアマダイの稚魚（平均体長約7cm）が「しまね海洋館アクアス」で展示されることになりました（写真右）。アカアマダイ稚魚は観賞魚にしてもよいほど泳ぎが優雅で愛くるしい魚ですので、種苗生産担当者としてはかわいい娘が結婚して家を離れる、と言った心境でしょうか。ぜひかわいい娘（息子？）たちを「アクアス」でご覧になってください。



また、今月末から来月には、飼育中のアカアマダイを放流する予定ですが、当センターが放流するアカアマダイには「イラストマー」という標識を眉間に施しています。実は「アクアス」にお渡ししたアカアマダイの一部に、この「イラストマー」を付けてありますので、ご覧になった際は探してみてください（写真はピンクの標識（左下）と緑の標識（右下））。



島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp